

9. 28豪雨災害30年事業 9月28日を忘れない防災講演会開催！

昭和58年9月27日から28日にかけて、木曾川は記録的な大出水となり、美濃加茂市・可児市・坂祝町・八百津町等では越水はん濫などの甚大な被害が発生しました。また近年においても気候変動に伴う局所豪雨や台風の大型化等により、全国各地で甚大な被害が発生しています。

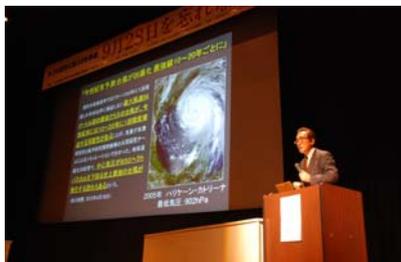
「9.28豪雨災害」から30年の節目の年を迎え、過去の豪雨災害から得た教訓を継承し、防災意識を深めることを目的として、地域防災力を強化する「9月28日を忘れない」防災講演会を開催しました。

【昭和58年9月28日豪雨災害の体験談発表】



自宅等の被災に遭われた地域住民の方々に当時の貴重な体験をお話いただきました。

【基調講演「天候異変の下で求められるこれからの地域防災」】



- ・防潮堤により住民は安全だと過信。しかし自然は簡単に想定を超える(岩手県釜石市の経験)。
- ・地域住民の災害に備える主体的な姿勢が重要。
- ・災害と向き合う文化を地域に根付かせる機会にしてほしい。

片田 敏孝 氏
(群馬大学広域首都圏防災研究センター長)

【座談会】 テーマ:過去の洪水と今後の取り組み



「座談会メンバー」
片田敏孝氏、藤井美濃加茂市長
富田可児市長、南山坂祝町長
赤塚八百津町長
三品坂祝町商工会会長
浅野木曾川上流河川事務所長
岩崎岐阜県河川課長

美濃加茂市長

可児市長

坂祝町長

八百津町長

昭和58年9月28日災害当日の座談会メンバーご自身の体験状況の話から始まり、近年の洪水や気象状況に対して、各市町や地域住民がどのように水害に対応しようとしているか、また災害対応の課題等について討論がされました。

片田氏は、行政の対応には限界があり、ゲリラ豪雨や大規模災害から、自分や家族の命を守るためには、住民自らが災害に備える主体的な姿勢が重要であると述べられました。